

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(1/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
関西イノベーション国際戦略総合特区 (京都府、大阪府、兵庫県、京都市、大阪市、神戸市)	4.4	4.4 進捗度 ・承認審査段階(中間)における効果 150% ・製品化・実用化(出口)における効果 111% ・研究段階(入口)における効果 100% 等	4.2 規制の特例等 ・スマートコミュニティオープンイノベーションセンター機能の整備 等 財政支援等 ・総合特区設備等投資促進税制 ・総合特区支援助利子補給金 等 地域独自の取組 ・次世代地域産業推進事業 等	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品事業、スマート事業の進捗ともに高い水準で進捗していることは高く評価される。規制緩和の活用、財政支援、税制支援の活用も積極的に進められている。 ・特区の範囲がきわめて広域であるが、いずれの目標においても高い達成度が示されている。 ・その一方で実績値には反映されない、具体的な成果に関する情報が(可能な領域においては)示されることを期待したい。 ・PMDA-WEST機能の整備は、本邦における戦略相談などにおいて、きわめて有用と期待される反面、相談そのものは東京主導で実施、高性能なテレビ会議は機能せず、などが発生していると思われる。本邦の医薬・医療機器開発における重要な機能であり、その具体的な実績について可能な範囲で示されることを期待する。

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(2/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
北海道フード・コンプレックス 国際戦略総合特区 (北海道、札幌市、江別市、函館市、帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町、北海道経済連合会)	4.1	4.3 進捗度 ・輸出に必要な国際認証・登録等数等 170% ・企業と一次産業との連携プロジェクト数 110% ・特区が関与した食品の輸出額・輸入代替額 67% 等	3.9 規制の特例等 ・農業経営改善 自家用貨物自動車活用事業 等 財政支援等 ・総合特区設備等投資促進税制 ・総合特区支援助利子補給金 等 地域独自の取組 ・商品の競争力強化促進事業 等	4.0	<p>・ある程度の進展は見られる。地域独自の取組が大きいですが、国が力を入れる「食」に関わるものであるため、国の方の規制緩和にアピールする部分をもっとあってもよい。</p> <p>・北海道独自の機能性表示制度の運用の展開、財政支援事業への取組等を引き続き行っていることは評価される。</p> <p>・コロナ禍の中で十分な実績を上げていると考えられる。</p> <p>・食品の輸出入の進捗度については、令和2年度のみの実績で判断すべきとは思えず、次年度の実績も注目したい。しかしながら、コロナ禍の長期化も懸念される中で、多くの期待は難しいと思われる。</p>

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(3/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
グリーンアジア国際戦略総合特区 (福岡県、北九州市、福岡市)	4.0	3.5 進捗度 ・当地域が貢献する環境を軸とした産業の年間売上高63% ・特区に係る支援措置を活用して設備投資を行った企業数91%	4.0 規制の特例等 ・圧縮水素運送自動車複合容器・附属品に対する刻印方式の特例の創設等 財政支援等 ・総合特区推進調整費 ・総合特区設備等投資促進税制等 地域独自の取組 ・福岡県北部九州自動車産業アジア先進生産拠点推進事業等	4.3	<p>・コロナ禍にもかかわらず例年通り順調に成果を積み上げていると判断できる。</p> <p>・環境産業の売り上げ、設備投資企業について、新型コロナウイルス感染症の状況下での進捗を評価したい。財政支援、税制支援の活用の努力も評価される。</p> <p>・水素を活用する脱炭素社会システムの先導的な社会実装のプロセスが実現していること等極めて重要な成果が得られていると聞いている。それらの情報を定性的な記述でもよいので、特区側からの評価の中でもご紹介いただきたい。</p> <p>・地域独自の取組の状況及び自己評価においては、実績のバラツキが見られている。実績が低迷した事業においては、次年度に向けての具体的改善策の構築を期待する。</p>

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(4/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
アジアヘッドクォーター特区 (東京都)	4.0	5.0 進捗度 ・外国企業と都内企業との引き合わせ件数 153% ・金融系外国企業の誘致数 125% ・その他の外国企業の誘致 106% 等	3.1 規制の特例等 ・ビジネスジェットの利用 手続簡略化 等 財政支援等 ・総合特区支援 利子補給金 地域独自の取組 ・アジアヘッドクォーター特区 拠点設立補助金 ・ビジネス コンシェルジュ 事業 等	4.0	<p>・東京という地理的なアドバンテージを活かして十分な進捗が得られている。</p> <p>・例年着実に実績を伸ばしてきているが、東京という場所の有利性に起因する印象が年々強くなっているような印象を持つ。ゆえに既に当初の目的を完遂しているようであれば、特区指定を再考する時期に来ているのかもしれない。</p> <p>・ビジネスコンシェルジュ制度等、ビジネスジェット利用等の規制緩和、財政、金融制度等の活用がコロナ下での進捗が停滞していることについて数字をもって説明いただきたい。</p> <p>・計画書においては、本プロジェクトの推進によって、地域経済の活性化、雇用拡大の可能性が言及されているが、この点に対する考察・検証も期待したい。</p>

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(5/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区 (愛知県、岐阜県、三重県、長野県、静岡県、名古屋市等)	3.8	3.5 進捗度 ・中部地域における航空宇宙関連の工場等の増設件数 140% ・中部地域における航空宇宙産業の生産高 62% ・中部地域における航空機・部品の生産高 69% 等	3.7 規制の特例等 ・工場等増設促進事業 等 財政支援等 ・総合特区設備等投資促進税制 ・総合特区支援助利子補給金 等 地域独自の取組 ・21世紀高度先端産業立地補助金 等	4.0	<p>・毎回非常にうまく進んでいる印象である。</p> <p>・工場立地規制法の弾力的運用等積極的な活用が進んでいる。ボーイング事業の金融支援の効果も期待したい。</p> <p>・工場等の増設が実績を上げているが、これに連動する生産高、輸出額、および雇用者数に関する経過についての情報共有が望まれる。</p>

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(6/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
つくば国際戦略総合特区 (茨城県、つくば市、 国立大学法人筑波大学)	3.8	3.3 進捗度 ・ライフ イノベーション・ グリーン イノベーションの 推進による 産業化促進 146% ・次世代がん 治療(BNCT)の 開発実用化 0% ・藻類バイオマス エネルギーの 実用化 635%	3.1 規制の特例等 ・搭乗型移動 支援ロボットの 規制緩和 等 地域独自の取組 ・ロボットスーツ 治験事業 等	4.3	<p>・引き続き順調に進むことが期待される。ただし、規制緩和などは実行可能なものはあらかじめ実施完了しているだろうから、新たな申請件数を評価するより、実施しているものの現行評価を行う方がよいのではないかと考えられる。</p> <p>・ライフイノベーションの産業化促進、事業化促進件数が進捗していることは高く評価できるが、BNCTの進捗が限定的であること、財政支援、金融支援の取り組み件数がないことについて説明をいただきたい。</p> <p>・ライフイノベーションによる連携企業数は順調に伸びていると思われるが、連携達成件数のみならず、短期的な効果を望むのは難しいことは十分理解しているもののその成果についても知りたい。</p> <p>・コロナ禍の影響によってBNCTの開発実用化に遅延が生じたのは非常に残念である。照射装置自体も減価償却の運命にあると思われ、早急な稼働、および、臨床評価を期待する。</p>

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(1)国際戦略総合特区(7/7)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
京浜臨海部ライフイノベーション 国際戦略総合特区 (神奈川県、横浜市、川崎市)	3.7	4.0 進捗度 ・個別化・予防医療及び未病改善などを実現するためのデータサイエンスの活用等に取り組む事業数 129% ・医薬品・医療機器・再生医療等製品等の早期実用化に向けた取組件数 68% ・新たに展開された商品・サービスの創出件数 150% 等	2.8 財政支援等 ・地域イノベーション戦略支援プログラム ・総合特区設備等投資促進税制等 地域独自の取組 ・産業集積促進奨励金 等	4.0	<p>・数値目標的には、概ね高い達成率を得ていると思われる。</p> <p>・進捗としては概ね良好と判断されるが、規制緩和などの項目に関して従来から進展がないように見られる。また、地元独自の支援ももう少し活発に行った方がよいように思われる。</p> <p>・投資額、データサイエンス事業数等の進捗が高い中で、就業者、研修者の増加が限定的なのは新型コロナの影響とも考えられるが、追加的な説明、今後に向けた準備的対応について説明を期待する。</p> <p>・医薬品・医療機器・再生医療機器製品等の新規開発件数において、目標値が平成29年度から令和3年度において増加目標があるように見受けられるが、実績については、その目標を上回っている。この背景について目標値設定の妥当性も含めて研究者側の事情を聞いてみたい。</p>